

支 部 だ よ り

関 東 支 部

支部長 谷 覺（昭42）

本年は春から長崎大学の全学同窓会が、東京の国立科学博物館において「熱帯感染症とたたかう長崎大学」の企画の下、熱帯医学研究所の活動紹介があり、それと併せて盛大に開催されました。全学同窓会には、長薬同窓会長の伊豫屋さんを始め本部の方々と関東支部の同窓生を中心に参加いたしました。折しも下村 脩先生のノーベル賞受賞直後とあって、大いに盛り上がりました。

今年度の長薬同窓会定期総会は、関東支部が当番でお世話させていただきました。当日は遠く北海道、沖縄、更には海外から、また卒業ほやほやの若い人から80歳を超すご長老まで合わせて130余名もの皆様にご参加いただきましたありがとうございます。当初は折角のノーベル賞受賞なので下村先生をご招待できないのかなどの案も出ましたが、ご案内のように落ち着いた次第です。

さて、上記のように本年度は全ての活動を総会準備に充て、例年行っていた卒業セミナーを休止致しました。しかし、この休止の期間に私自身は世の中が急速に変わりつつあることを実感しました。今までは、来るべき6年制薬剤師教育がどのように行われ、従来の薬剤師とはどのように違うのかなどに関心が集まっていたのが、教

育制度も理解され輩出する薬剤師像も予想できるようになってくると、今までと大きく変わる訳ではないことがハッキリしてきました。6年制薬剤師と共に、世界標準の薬剤師の地位が自動的に手に入るかのごとき錯覚に陥っていたのが、もろくも崩れ去っていったこの一年だったような気がします。関東支部としましては、薬剤師の地位確立は薬剤師自身が勝ち取っていかねばならないという当たり前のことを念頭に、同窓生の卒業支援を今後とも地道に続けていきたいと考えています。もう一点は、この間、若い同窓生の間に新しい息吹が感じられることです。昨年冬に平成世代の人が集い、旧交を温めたという話を聞き、大変喜んでいました。コンピュータの登場で革命的な変化が起こった例を引くまでもなく、これからはネットワークこそが重要なツールになることは自明です。問題はネットワークの質であり、使い方を誤ればとんでもない危険なモンスターになります。しかし、同窓会のネットワークは安全で強固ですから、このネットワークを利用しない手はありません。セキュリティを高め、会員に信頼されるネットワークの構築が、これからの重要な課題だと考えています。

そろそろ来年度の準備を始めなければなりません、多くの会員の方からのご提案により、楽しく、為になる企画を立てていきたいと思っております。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

近 畿 支 部

支部長 白石 哲也（昭32）

近畿支部は今年で創立90周年を迎えました。故新津秀先輩（大7）により大正8年に近畿支部同窓会が創られました。それから90年間、多くの先輩により、近畿支部が支えられ発展し今日があります。ここに諸先輩に対し敬意と感謝の気持ちを捧げたいと思います。また、平成16年には故遠藤武男先輩（昭11）により近畿支部会報第1号が「創立75周年記念誌」のタイトルで発行されました。今年で15年目を迎えます。会報の発行が更に継続され、会員の交流と親睦に寄与することを願っております。

本年度の特別講演及び長薬同窓会近畿支部総会・懇親会は平成21年10月17日(土)午後、長薬同窓会から伊豫屋偉夫会長の出席を得て、支部会員407名のうち30名の出席のもと大阪弥生会館で開催されました。

総会に先立って行われた特別講演は「ジェネリック医薬品の現状と展望」というテーマで稲荷恭三氏（昭47年卒、沢井製薬株式会社取締役）にお願いしました。将来を見据えたジェネリック医薬品の重要性を分かりやすく説明され、質疑応答もあり盛況のうちに終わりました。

総会では第1号議案～第4号議案は原案通り承認され



稲荷恭三氏の講演

ました。昨年は近畿支部会費納入の向上と近畿支部会報の紙面B5判(綴込み)からA4判(A3判折込み)への変更に取り組んできました。会員のご理解とご協力で収支は一息ついたところです。

懇親会は石津一貫先輩(昭16)の乾杯の音頭で始まりました。吉森由香さん(昭59)の司会で全員から近況報告がありました。それぞれの思いが伝わってきました。短い時間でしたが楽しいひとときを過ごすことができました。今年はフレッシュマンの道家利彦さん(平18)のほか、福岡支部の野中ナヲミさん(昭26)、関東支部の末澤克己さん(昭47)が加わり、場を盛り上げてくれました。最後は山内平介さん(昭46)の万歳三唱で終わりました。



成田さんと野中さん(昭26)



平成21年10月17日 於 大阪弥生会館

山陰支部

出雲駅伝の1日

支部長 **橋本 覚**(昭52)

出雲大社では大遷宮が行われています。完成までもう数年を要するでしょう。そして、この大社をスタート地点として駅伝(神伝)が始まるのです。正式名称は出雲



全日本大学選抜駅伝競走で、回を重ね今年で21回となりました。フジテレビ系列で全国に放送されますからご覧になった方もいらっしゃると思います。

この駅伝が始まった頃、「こんな田舎路で駅伝?」と誰もが思ったものです。それが今では見違えるように道路も整備されバイパスも出来、渋滞を招くことが少なくなったのではないのでしょうか。第1回大会から私の家族は応援を続けています。途中から私も加わったのですが…。大会に協賛したイベントが各地で開かれるようになって、それを見るのが楽しみの一つになったからです。例えば平田太鼓、神楽とか…。

当初、諫早に住む両親に孫達の元気な姿を見せたくて、テレビに映るかも?とオーバーな動きをしたりして…。それがいつの間にか選手の躍動感を見るのが堪らなく好きに…。それと、大学のバンカラな応援が魅力となりました。

待つこと10分、今年出人出がとても少ない。隣の有線テレビ局で子供のチアガールが気分を盛り上げてくれているのですが…。暫くして理由がわかりました。今年から駅伝のコースが変更され環状線を時計回りから逆回りになり、第3中継所が移動してしまったようです…、「中



中央大学応援団 OB もあちらへ行ってしまったのか！」平田太鼓と応援団のコラボが楽しみで...、今から移動しても間に合いません...残念です。

上空から賑やかな音。ヘリコプターが近づいてきます。そして状況を知らせる拡声車。図書館前が私達の応援場所なのです。昨年の大会まで中央大学が占めていた場所に、明治大学の応援旗を持った人たちがドヤドヤとやってきます。今年初参加の大学です。私達もその雰囲気に乗って「♪...おーおー、明治 ...♪」と口ずさみます。

白バイ、テレビ中継車に続いて選手が現れました。早稲田、日本大学、それともう1人、3名がデットヒート。激しい息使いで目の前を通過していきました。スポンサーや大学名を記した手旗が廃止になったので、とても見やすくなりました。終わった後、紙が散乱してしまうので私は汚く感じていました。「あれは本当に無駄だっ



北九州支部

支部長 **芥野 岑男** (昭46)

平成20年10月18日(土)、長薬同窓会本部から富永義則副会長(環境科学部教授、昭44)をお迎えして、会員32名参加のもと、平成18年に長薬同窓会定期総会が今までの最高の参加者で行われたのと同じ会場(小倉ステーションホテル)で支部総会が開催されました。

増田幹事(昭50)の進行のもと、小島副支部長(昭30)

た。」手旗の代わりに選手が通過する度に名前を連呼し拍手で応援です。この方が健康的で爽やかだと思います。

ついに明治大学の選手が通過しました。湧き上がる歓声、選手の氏名を叫ぶ黄色い声...。あれは彼女?それとも家族でしょうか...。そして、明治大学の応援団が一斉に移動します。私達も1日OBですから後に続きます。200mほど北へ行った交差点、ここで環状線を戻って来た選手を迎えて応援する手はずなのです。車の通行は完全に遮断しています。ここでは道路の真ん中まで出て応援しても大丈夫です。「こんな場所にいると確実にテレビに映る...。」、内心ワクワクしてきます。選手たちが通過する頃には完全に明治大学のOBになりきってしまっていました。「明治大学 ...!...頑張れー!」



そして、大満足して家路へ。

テレビ中継の録画を再生して確認します。早送り、早送り...。ところが、...ところが、私達が応援していた場所にもう直ぐというところで、...CMに...切り替わりました。少し早送りして第二の応援場所は?...?...戻して再生?...?...またしても、...CMです。実況に切り替わった場所は市街地を通り過ぎた田舎路でした。「むむむむ...。ふう...」以上が10月12日、体育の日の出来事でした。

話が違って、平成21年度長薬同窓会の山陰支部会は2月頃に蟹鍋を囲んで開催する予定です。そのうち幹事様から案内状が届くと思いますので多数のご参加をお願いします。

の開会の辞、物故会員への黙祷のあと、長崎大学薬学部の近況報告が行われました。

この年はちょうど、下村 脩先生のノーベル化学賞受賞の報道のすぐあとだったため、富永副会長から、朝日賞受賞後に長崎大学に来ていただいて行われた下村 脩先生のご講演の内容を詳しくお話していただき、また、実際にGFPに紫外線をあてて光る実演もしていただきました。光ったときには一同の歓声が上がりました。

また、長崎大学薬学部の薬草園に大変ご尽力いただきました、故大橋 裕先生(昭29)のご功績についてもお話いただきました。

私事で恐縮ですが、学生時代に、田口(正久)さん(昭46)、大川君(昭44)と一緒に大橋先生の教室に実習生等の何の身分もないのに、入り浸って、いろいろ実験をさせていただいたり、野母崎の薬草園開設のころには、小屋に泊っているいろいろな作業をお手伝いしたり、鹿児島植物園や種子島の薬草園にこのことキャンプ気分でお供させていただいたりしたものですから、大変なつかしく拝聴させていただきました。

その後、役員改選があり、昨年の会報で前支部長末宗先生(昭28)からご報告のとおり9名の新役員が決まりました。

写真撮影の後、大川内幹事(昭59)の進行で懇親会に

移りました。会員全員の近況報告のあと、北九州にご縁があるということで特別参加の松本康裕先生(昭24)が、「下村 脩君とは……」で始まった学生時代の下村先生との思い出のお話や、下村先生の長崎時代をご存じの諸先生方、下村先生との学生時代や助手時代のお話などで、大変盛り上がった会になりました。

さらに、この年は昭和19年卒の今崎正明大先輩を始め、遠方から福岡浦陵会支部の松本康裕先生、同じく永田久利先生(昭28)、山口支部の大塚保雄先生(昭35)もご出席いただき、無事、有意義な総会を終わることができました。



平成20年10月18日 於 小倉ステーションホテル

福岡支部浦陵会

会長 青木 郁(昭38)

残暑厳しい中、平成21年度長薬同窓会福岡支部浦陵会を9月6日(日)14時から福岡国際ホールで開催いたしました。今回は大変ご多忙な中、伊豫屋会長(昭41)、長崎大学副学長中島憲一郎教授(昭46)のお二方にご出席いただきました。

長薬同窓会福岡支部浦陵会は「長崎大学薬学部という母校があって仕事ができる自分があると考えれば、同門会は無意味ではなく、利害関係のない同士が先輩、後輩と言う年代と経験を生かした中で、自由にそして安心して話し合える場」にする事を目標に計画しています。昨年からは「21世紀の薬剤師像をアップしよう！」を大テーマとし、色々な分野でご活躍されている先輩や仲間の活躍されているお話を聞いてまいりました。

今年は同門として、心から喜ばしく誇りに感じ感動し

たことは、昭和26年ご卒業の下村 脩先生のノーベル化学賞受賞であったと存じます。この授賞式に参列され、直に味わってこられた感動と母校長崎大学薬学部が如何に感動し、興奮したかを自ら体験された中島教授にお話いただきました。

又、今年は6年制が導入されて4年が経とうとしています。母校の教育状況がどの様に変化し、どのような薬剤師像を目指しているのかを中島教授にご講演頂き勉強いたしました。4年制の学生と6年制の学生を教育する先生方のご苦労と悩み更に問題点、今後起こるであろう色々な問題点を懇切丁寧に講演頂き十分理解することが出来ました。現場を知らない多くの参加者は驚きとともに当事者としてご苦労されている薬学部の教授の方々のご苦労の大変さを感じる事が出来ました。

下村 脩博士の研究業績と経過、そしてノーベル化学賞受賞と授賞式での感動は参列された方でないと言えない感動的なお話でした。先生と同門であることの誇りと感動をいただきました。同門であることの意義は、人それぞれであろうかと思いますが、ノーベル化学賞受賞

者と同門であることに誇りを感じている一人として、本当に良かったと思っています。改めて、先輩と後輩が忌憚なく情報交換が出来る同門会と成るよう取り組んでいきたいと考えております。

今年度の浦陵会の企画・運営並びに各部門の司会進行等で昭和61年卒業の市村さん、古海さん、下川さんに大

変お世話になりました。若い世代の同門の方々が参加し、協力して無事に終了することが出来ましたことをご報告いたします。また、平成22年度は昭和42年、昭和62年、平成9年、平成19年卒業の方をお願いしたいと考えています。紙面を借り改めて、宜しくお願いいたします。



講演会



懇親会

大分支部

支部長 **野尻 敏博**（昭48）

長薬同窓会大分支部総会ならびに懇親会を平成21年1月31日(土)、大分市の小田急センチュリーホテル大分において、来賓として本部から伊豫屋会長をお迎えし、24名の出席者で開催しました。

はじめに阿部幹事（昭50）より会計報告、会員の異動等の庶務報告が行われ了承されました。



野尻敏博支部長

伊豫屋会長からご挨拶があり、長薬のご出身であります下村 脩先生が昨年ノーベル化学賞を受賞されるという我が同窓会としても大変名誉なことが報告されました。会長も記念行事等の準備で忙しくなりそうでうれしい悲鳴だそうです。我々後輩としても自分のことのように誇らしく思いました。



伊豫屋会長のご挨拶

また、乾杯のご発声の挨拶で、大分支部の大先輩であります西川恭夫先生（昭26）が下村先生と同級生だったということで、小野島での学生時代の思い出を紹介されました。先生は優秀で大変真面目に勉強をされ同級生から一目置かれる存在であったということです。



下村 脩先生の思い出を熱く語る西川先生

さて、大支部では参加者全員が揃うと必ず記念写真を撮ることになるのですが、これがすんなり終わったことがありません。F氏（名誉のために名前も卒業年次も伏せます）が毎年撮影してくれるのはありがたいのですが、せっかく緊張してポーズをとっていてもフィルムが入ってなかったのでやり直し。今度はストロボが焚けない。タイマーが利かない。等で毎回大爆笑です。おかげで和やかなうちに会は進行します。

懇親会もたけなわになると卒業年次ごとに近況報告が行われ、それぞれの職場で薬剤師としての充実した仕事ぶりが報告されていました。

最後に、昨年大分に帰ってきた堤 勝也君（昭62）が野球部仕込みの巻頭言で締めくくり、みんなで校歌を歌い、来年の再会を約し散会しました。

出席者

西川 恭夫（昭26）	野内 栄二（昭37）
藤井 幹久（院昭44）	野尻 敏博（昭48）
石橋 眞（昭49）	阿部 敏幸（昭50）
倉田 啓二（昭50）	松本(上村)和子（昭51）
朝倉 俊治（昭51）	井上(長尾)美津枝（昭51）
川口 純市（昭52）	金丸 哲宏（昭53）
都留 君佳（昭55）	中西 健二（昭56）
福田 俊和（昭58）	堤 勝也（昭62）
北村 雅子（平1）	若松 正人（平1）
久壽米木洋子（平4）	永野 俊玲（平5）
浜野(工藤)峰子（平8）	陸丸 幹男（院平15）
園部千賀子（平18）	山瀬 敬治（平19）



平成21年1月31日 於 大分センチュリーホテル

佐賀支部

支部長 **藤戸 博**（院昭52）

昨年の暮れに、ウミホタルのルシフェリンやオワンクラゲのイクオリン、GFPなど、長年にわたり天然生物の発光物質を研究されていた我が長崎大学薬学部の大先輩である下村 脩先生がノーベル賞を受賞されたというニュースを聞き、私たちの身近なところからノーベル賞の受賞者が出たことにビックリいたしました。早速、長薬同窓会の名簿を開いて確かめたところ、紛れもなく私たちの名前が載っている同じ同窓会名簿の昭和26年卒業のところに、下村 脩先生の名前を見つけることができました。長薬同窓会佐賀支部を代表しまして、今回の下

村 脩先生のノーベル賞受賞を心からお祝い申し上げます。

さて、長薬同窓会佐賀支部は、平成9年5月31日に長薬同窓会定期総会を佐賀で開催して以来、休眠状態でした。そこで、伊豫屋偉夫長薬同窓会長からの強い働きかけもあり、大間賢一先生（昭47）の号令のもと、昨年の夏から有志で実行委員会を組織して、本年、12年ぶりに支部総会の開催に漕ぎ付けることができ、永い眠りから目覚めて復活いたしました。平成20年度佐賀支部総会は下村先生のノーベル賞受賞の熱気が冷めやらぬ1月18日に、佐賀市の「グラウンドはがくれ」において、予想を上回る43名の先生方に出席していただき開催しました。

まず、江口 麟先生（昭30）の開会の挨拶の後、薬化学出身の富永義則先生（長大環境科学部教授、昭44）による「最近の長崎大学薬学部について」の特別講演と、

下村先生の研究に関連した蛍光の実験が披露されました。明りを消して暗くした中で鮮やかに光る蛍光物質はとても幻想的で、下村先生のノーベル賞の研究を身近に感じることができました。

総会では、長薬同窓会佐賀支部会則と支部組織が承認され、新役員として支部長に藤戸 博（院昭52）、副支部長に佛坂 浩（昭61）、監事に八谷 緑（昭50）、末安正典（昭52）、幹事に西依 健（院昭54）、志岐寿子（平4）、河野健太郎（院平14）、中島佐知子（院平18）、顧問として江口 嶸の皆さんが選任されました。

支部総会終了後、懇親会に移り、年代ごとにテーブル

を囲んで、下村先生のノーベル賞受賞の話や学生時代の昔話で、和やかなひと時を過ごしました。懇親会の伊豫屋会長の挨拶の中で、会長から「平成22年度の長薬同窓会定期総会を佐賀で開催して欲しい」との要望がありました。そこで、平成22年6月26日(土)にホテル・ニューオータニ佐賀で開催できるように、13年ぶりの佐賀での長薬同窓会定期総会の開催に向けて、現在、準備を進めております。つきましては、平成22年度の定期総会に多数の皆さまに参加していただくよう、お願い申し上げます。また、佐賀支部では、支部の愛称を検討しておりますので、定期総会の時にはご披露したいと思います。



平成21年1月18日 於 グランドはがくれ

熊本支部

山本喜一郎（院昭55）

平成21年度の熊本支部例会・懇親会は、9月の第一土曜日の9月5日(土)にアークホテル熊本2階の花水木の間で開催しました。2階にしつらえてある日本庭園に面したとても雰囲気の良い部屋でした。

参加者は、女性が、岩下さん、田中さん、矢田さん、上村さん、上仲さんの5名。男性が、宮崎さん、古川くん、久松さん、松尾くん、前田さん、高濱さん、山本の

7名に、同窓会から伊藤先生をお迎えして、計13名でした。嬉しいことに、初参加の方が2名いらっしゃいました。宮崎さん、高濱さんです。また、去年は参加されなかった上村さん、また前田さんが久しぶりの参加でした。昨年参加いただいた一番ヶ瀬先生は体調不良の為、残念ながら不参加でした。ご常連の篠原先生や平野さん、秦野さんや木山ご夫妻はそれぞれご都合があり不参加でした。来年お待ちしております。

実はサプライズゲストとして、中島憲一郎先生をお呼びしようと思っていました。去年の大きな話題として、長薬の大先輩の下村先生がノーベル賞を受賞されましたが、その授賞式のためストックホルムに行かれる際、関

係者30名が同行されるとのことで、その中に中島憲一郎先生が含まれているという情報を得ました。そこで、中島先生に平成21年の熊本支部例会では、是非その時の様子を聞かせて下さいとお願いして、快諾を得ていました。ところが、先生は熊本支部例会の翌日開催される福岡浦陵会で招待されているとのことで、残念ながらご出席が叶わぬことになってしまいました。そこで、プレゼンが非常にお上手な伊藤先生に、大学の近況に加えて、下村脩先生の名誉博士記念講演会の様子などをお話いただくことにしました。ところが、あろう事が、先生ご持参のパソコンのハードディスクのクラッシュで折角のプレゼンができなくなりました。急遽、同窓会よりお送りいただいた授賞式の様子のDVDを宴会のバックグラウンドとして上映することにしました。しかし、流石伊藤先生、受賞対象となったGFPの現物を封じ込めたミニ試験管やブラックライトを用意されていて、お陰で発光の実物を見ることができました。また、薬学6年制についての実情や問題点なども分かりやすく解説していただきました。

近況報告の中での話題としては、前田さんが人吉で開局されました。また上村さんが第二子ご懐妊とのことでした。初参加の宮崎さんは、今年から熊本市内の病院薬剤師として勤務されているそうです。また、参加者の中で唯一学生の高濱さんは、熊大医学部の博士課程で、研究生活に明け暮れていらっしゃるそうです。

今年はゴルフ大好きの前田さんが久しぶりの参加で、同じくゴルフ好きの古川くんや宮崎さん、久松さんも加

わって、ゴルフの話が盛り上がっていました。鶴先生が熊本を離れられてからしばらく休止していましたが、来年は同窓会ゴルフを久しぶりに再開できそうです。

2次会は、伊藤先生、宮崎さん、前田さん、久松さん、古川くん、松尾くん、山本の男性7人+矢田さんの計8名で街中のカフェへ繰り出して、時間を忘れて夜遅くまで色々な話に興じました。

参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。また来年もよろしくお祈いします。

長葉同窓会の皆様、熊本支部の例会は毎年9月の第一土曜日に開催していますので、皆さん是非ご参加下さい。また、他支部の方で、当日熊本にいらっしゃった方も大歓迎ですので、山本までご連絡下さい。

最後にお詫びと訂正があります。昨年の支部会報告の中で、兒島正樹さん(院昭62)と書きましたのは、山内秀樹さん(平2)の誤りでした。兒島さん、山内さん、どうもすみませんでした。

参加者(敬称略)

宮崎 賢三(昭50)	岩下 淑子(昭52)
古川 真一(昭54)	山本喜一郎(院昭55)
田中 久子(昭56)	松尾富士男(昭59)
矢田 道代(昭60)	久松 貞義(昭60)
前田 健次(平5)	上仲 小玲(平6)
上村 裕子(平6)	高濱 和弘(平18)
伊藤 潔(昭59)	
以上 13名	



平成21年9月5日 於 アークホテル熊本
後列左より、田中、矢田、上仲、古川、久松、伊藤先生、高濱
前列左より、松尾、上村、岩下、宮崎、山本、前田

長崎県北支部

支部長 今上 亨(昭25)

今年特筆すべき事は、昨年(2008年)昭和26年卒の下村 脩博士がノーベル化学賞を受賞されましたが、幼少時を佐世保で過ごされ、佐世保中学に昭和16年、私と同じ時に入学されました。そのため、平成21年3月21日佐世保名誉市民として顕彰式が行われ、市長主催の昼食会の後、現在の佐世保南高校に顕彰碑が建立されて、その除幕式が行われました。

顕彰式には佐世保地区在住の松田雄光君(昭25)、同級生の貞方 典君(昭26)、助手で残っていた佐田純子さん(昭25)や今泉貴世志君(昭31)も一緒でした。

平成21年4月1日 私は日薬有功賞を受ける事になりました。長崎労災病院を定年退職後に、現在地に大和調剤薬局を開設し、80歳になるまで広域分業を実施しているためと思います。これまで続けてこられたのは、多数の方々のご協力によるところでありまして、深く感謝申し上げます。

今年度の支部総会は平成21年11月28日(土)に開催しました。幹事の相川先生に報告していただきます。

支部総会報告

幹事 相川 康博(昭48)

今年の支部同窓会を平成21年11月28日(土)18時から、佐世保グリーンホテル(活け洲博多屋)で開催しました。

伊豫屋長薬同窓会長をお迎えし、総勢18人の会となりました。伊豫屋会長からまず、大学が独立行政法人化されたことを機に全学同窓会が立ち上がっている事とその会報についての報告がありました。次に、下村先輩がノーベル賞を受賞され、その記念講演会が中部講堂で行われたが、長薬同窓会の枠が少数に限られたため同級前後の会員の方しか入れず申し訳なく思う事及び講演をDVDにして支部長に配布したのでそれを見て欲しい事をお話頂きました。最後に、来年の長薬同窓会定期総会は平成22年6月26日に佐賀市で開くので、最も近いこの支部か

ら40人以上の参加をお願いしたいと、願いがありました。

今上支部長の開式の挨拶と乾杯の音頭で懇親の宴に移り、新入会員から卒業年の新しい順に自己紹介と近況報告をしていただきました。

下村先輩のことが話題に上り、スナップ写真も披露されました。下村先輩は現佐世保南高校を卒業するまで佐世保で過ごされたため、佐世保市名誉市民の称号を受けられることになり、その授与式のために来佐されました。このときの一連の様子を市がDVDを作成するので、これを支部に提供すると松尾先輩(昭34)から提案がありました。



日薬有功賞受賞の今上支部長



平成21年11月28日 於 佐世保グリーンホテル(活け洲博多屋)

また、今上先輩が日薬有功賞を受賞され、そのメダルも披露されました。名残は尽きないものの、予定の2時間半を越えたところで新入会員の立石氏（院平21）の万歳三唱で散会しました。

出席者

今上 亨（昭25） 松田 雄光（昭25）
中倉 敬昭（昭26） 末武 和子（昭29）

松尾 幸子（昭34） 林田 匡代（昭36）
副島 敬子（昭39） 松本 功治（昭41）
島田志津枝（昭45） 田代佐夫子（院昭48）
相川 康博（昭48） 榊原 隆三（院昭50）
小笠原正良（院昭51） 荻野 清子（昭62）
井手 指月（平2） 森 善洋（平18）
立石 徹（院平21）

長崎県央支部

支部長 平山 文俊（昭41）

諫早市、大村市に居住する会員149名で構成する諫早支部は、暮れも押し迫った平成20年12月7日に伊豫屋会長、支部会員22名が参加して支部総会を開催しました。

総会は、伊豫屋会長挨拶のあと議事に移り「諫早支部」という名称を「長崎県央支部」に変更、続いてノーベル賞を受賞された下村 脩博士が大学に在籍されていた当時、薬品分析化学教室の同僚であった赤司一武先生（昭22）、同級生の黒田隆次先生（昭26）より下村博士についての思い出を講話いただき、続く懇親会で会員の自己紹介、記念写真撮影を行い終了しました。

話題の中心はノーベル賞を受賞された下村博士で、長崎大学在籍時に、博士と諫早から汽車通学された赤司、黒田両先輩が下村博士は目立つ存在ではなかったが、帰りの汽車でノーベル賞を取りたいものだと言っていたと希望を膨らま

せて語り合ったことを紹介され、また、懇親会の席では下村博士に指導を受けられた方々が学生への指導状況などいろいろなエピソードを紹介されました。また、今回は下村博士のノーベル賞受賞効果があったのか、年配者の参加が多く、今とは比べられない薬剤師の就職難の時代に、様々な職業に従事された経験談を聞くことができました。これから薬剤師過剰になり就職難の時代が訪れるとも考えられますが、それをどう乗り越えていくのか、示唆するものでありました。

会の運営では、若い会員や女性会員が参加しやすいように会費を抑え、飲酒を止めてみましたが、平成の卒業生の参加は皆無で、若い会員の参加者を増やすことが今後の課題であると思います。

蛇足になりますが、下村博士が青春時代を過ごされた諫早では、市広報の表紙に博士の顔写真が掲載され、博士が居住された町、博士の親族、受賞のもとになった業績などを紹介する特集が生まれ、博士が帰省された折には、諫早高校、市役所を訪問され、今でも諫早高校同窓会有志が博士の銅像を建てるために活動されています。



平成20年12月7日 於 ホテルグランドパレス諫早

参加者

伊豫屋偉夫会長(昭41) 高橋 安人(昭20)
 赤司 一武(昭22) 黒田 隆次(昭26)
 郷野美智子(昭30) 森田 勉(昭30)
 山本 勲(昭30) 中村 秀男(昭31)
 熊本 公子(昭33) 倉石 千鶴(昭33)

坂本 滋子(昭34) 吉田 研次(昭37)
 開 泰二(昭39) 松村 祐子(昭40)
 小松 芳文(昭41) 早崎 義信(昭41)
 平山 文俊(昭41) 内田 民子(昭44)
 馬場 強三(昭44) 林田眞二郎(昭48)
 手塚 晴美(昭53) 高良 真也(昭57)

長崎支部ぐびろ会

会長 山中 國暉(昭43)

平成21年度の長崎支部ぐびろ会総会を7月25日(土)午後6時から長崎市筑後町のホテルセントヒル長崎にて開催しました。水野和美氏(平11)の司会で開会し、物故会員への黙禱、会長挨拶の後、長薬同窓会長 伊豫屋偉夫氏(昭41)に來賓挨拶をして頂きました。

続いて、議長に井上志郎氏(昭43)を選出し議事に移りました。

議事

平成20年度事業報告 会長 山中國暉

平成20年度決算報告 会計 濱田哲也

平成20年度監査報告 監事 田原 務

平成21年度事業計画 会長 山中國暉

ア)長薬卒業生による出身研究室へ研究費の寄贈

研究室：中島憲一郎教授，中嶋幹郎教授

イ)原爆慰霊碑の清掃(グピロヶ丘防空壕跡)

平成21年8月2日(日)

ウ)第1回長崎大学ホームカミングデーの参加

平成21年11月21日(土) 長崎大学文教キャンパス

平成21年度予算 会計 濱田哲也

以上、執行部の提案通り議決されました。

その後、「下村 脩博士ノーベル化学賞受賞記念講演会DVD」(長薬同窓会より)を鑑賞。引き続き司会を水野和美氏にお願いし、西脇金一郎氏(昭33)の挨拶と乾杯で懇親会を開始。各テーブルでは話が盛り上がり、笑い声が起り時の経つのを忘れる程でした。特別会員北川常廣先生の万歳三唱で和気藹々のうち楽しいひと時を終了し閉会しました。

総会・懇親会の出席者は以下のとおりです。

北川 常廣(特)	峰 唯信(昭26)
桑山 晶子(昭31)	後藤 達元(昭32)
西脇金一郎(昭33)	木下 敏夫(昭35)
高木 康(昭35)	伊豫屋偉夫(昭41)
山中 國暉(昭43)	井上 志郎(昭43)
富永 義則(昭44)	猪平 民雄(昭47)
井手 清(昭48)	中嶋 誠一(昭49)
馬場 満輝(昭49)	松田 米人(昭50)
原田 均(昭51)	田原 務(昭51)
角野 仁美(昭54)	濱田 哲也(昭54)
丸野 瑞枝(昭54)	中嶋 幹郎(昭57)
宮崎 幹雄(昭58)	秋吉 隆治(平3)
井石 政之(平4)	森本 仁(平5)
岩永 真理(平6)	金村 隆則(平6)
濱田 典子(平6)	南 義人(平7)
水野 和美(平11)	江頭 千恵(平19)

